

結跏趺坐

ですのでご紹介させていただきます。

結跏趺坐とは跏

(あし)を跏(あぐらをかいて)して結ぶ坐り方のことです。座っている仏像に多く、座禅の時の姿勢です。

お釈迦様は、王子の位を捨て、苦痛を伴う修行を捨て、菩提樹の下で結跏趺坐をして瞑想をし悟りを開かれました。十二月八日の出来事でした。成道会の由来です。

結跏趺坐の姿勢は、まず片方の足の甲を反対のものに乗せ、もう片方も同じように重ねます。この時、右足が上になる座り方を吉祥座といい、悟りを開く意味があります。左足が上になると降魔座といい、修行の意味があります。また、片方の足だけをかける座り方を半跏趺坐といい、菩薩像などに多い座り方です。結跏趺坐ができない場合は、この形でもよいとされています。

結跏趺坐の姿勢は、坐骨、両膝の三点で身体を支えて



結跏趺坐

いるので、長く座ることができません。長く瞑想をするために、インドでは少しずつこの形が整ってきたのでしょうか。

日常の仏教用六十の手習い語ではないので今からでもすが、重要な言葉「遅くない」

こんなところに

仏教用語

を

身近な仏教用語を紹介しています。

結構

結構は、現代では意味が変わりやすい言葉のひとつではないでしょうか。



「結構なお手前で」十月に開催されるお茶会に是非参加して下さい。この場合の結構は、とても準備され、立派であるという賞賛の意味が込められます。

お店などで、〇〇ですかと勧められた時に、結構です。という断りの意味になります。

広辞苑を引いてみましょう。

①かまえつくること。組み立てること。②たくらみ。もくろみ。計画③したく。用意。④申し分のないこと。よいこと。⑤氣立てのよい事。好人物であること。⑥これ以上は望まない事。十分。たくさん。

このように意味が多岐にわたります。

お経にも結構という言葉はできます。この場合は、①や④のように、よく整えられているとか立派であるという意味で出てきます。⑥の否定の意味で用いることはまずありません。同



じ言葉でも、時代が変わると意味が変わることがありますので注意して見ていきましょう。